

ふるさと 資料紹介

=(73)=

史料と地名からみた 地区の歴史28

三和(二)

三和町の旧廿屋村は、慶長以降明治までは幕府領でした。一七世紀半ばの記録(正保郷帳)によると、田九五石余・畑一〇一石余・山三石。將軍や大奥の飯米となる「御膳粉ごぜんもみ」を割り当てられていました。

宝暦一一年(一七六一)の差出明細帳によれば、戸数は七九軒、人口が二八二人でした。その後明治二年には戸数七四、人数三二五と記されています。

中廿屋には江戸時代、円空が籠こもったといわれる「観音洞円空窟かんのんぼつえんくう」とそこで彫った「馬頭観音」

があり、いずれも市の指定文化財です。馬頭観音がまつってあった祠ひらの棟札の記載や、「みすぼらしい修験者ともみえる坊さんが：穴で毎日お経をあげたりし：ある日、仏像を預けてどこかへ行ってしまった」という伝承などから、寛文年間に円空がここで修行して仏像を作ったといわれています。円空四〇歳のころの作です。



▲観音洞円空窟と馬頭観音

今回は、次の人から貴重な資料を寄贈していただきました。ありがとうございます。

(平成九年六月分)

○昭和三〇年代の農作業映像
一点(日比野安和さん／古井町)
計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化会館内文化課(■内四〇八)まで情報をお寄せください。